



Power BI 向け InterSystems IRIS コネクタ

Version 2024.1
2024-06-03

Power BI 向け InterSystems IRIS コネクタ

InterSystems IRIS Data Platform Version 2024.1 2024-06-03

Copyright © 2024 InterSystems Corporation

All rights reserved.

InterSystems®, HealthShare Care Community®, HealthShare Unified Care Record®, IntegratedML®, InterSystems Caché®, InterSystems Ensemble®, InterSystems HealthShare®, InterSystems IRIS®, および TrakCare は、InterSystems Corporation の登録商標です。HealthShare® CMS Solution Pack™ HealthShare® Health Connect Cloud™, InterSystems IRIS for Health™, InterSystems Supply Chain Orchestrator™, および InterSystems TotalView™ For Asset Management は、InterSystems Corporation の商標です。TrakCare は、オーストラリアおよび EU における登録商標です。

ここで使われている他の全てのブランドまたは製品名は、各社および各組織の商標または登録商標です。

このドキュメントは、インターシステムズ社(住所: One Memorial Drive, Cambridge, MA 02142)あるいはその子会社が所有する企業秘密および秘密情報を含んでおり、インターシステムズ社の製品を稼働および維持するためにのみ提供される。この発行物のいかなる部分も他の目的のために使用してはならない。また、インターシステムズ社の書面による事前の同意がない限り、本発行物を、いかなる形式、いかなる手段で、その全てまたは一部を、再発行、複製、開示、送付、検索可能なシステムへの保存、あるいは人またはコンピュータ言語への翻訳はしてはならない。

かかるプログラムと関連ドキュメントについて書かれているインターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載されている範囲を除き、ここに記載された本ドキュメントとソフトウェアプログラムの複製、使用、廃棄は禁じられている。インターシステムズ社は、ソフトウェアライセンス契約に記載されている事項以外にかかるソフトウェアプログラムに関する説明と保証をするものではない。さらに、かかるソフトウェアに関する、あるいはかかるソフトウェアの使用から起こるいかなる損失、損害に対するインターシステムズ社の責任は、ソフトウェアライセンス契約にある事項に制限される。

前述は、そのコンピュータソフトウェアの使用およびそれによって起こるインターシステムズ社の責任の範囲、制限に関する一般的な概略である。完全な参照情報は、インターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載され、そのコピーは要望によって入手することができる。

インターシステムズ社は、本ドキュメントにある誤りに対する責任を放棄する。また、インターシステムズ社は、独自の裁量にて事前通知なしに、本ドキュメントに記載された製品および実行に対する代替と変更を行う権利を有する。

インターシステムズ社の製品に関するサポートやご質問は、以下にお問い合わせください:

InterSystems Worldwide Response Center (WRC)

Tel: +1-617-621-0700

Tel: +44 (0) 844 854 2917

Email: support@InterSystems.com

目次

Power BI 向け InterSystems IRIS コネクタ	1
1 コネクタの概要	1
2 InterSystems IRIS への接続	1
3 データの参照	1
4 データを使用したレポートおよびダッシュボードの公開	2
5 コネクタのトラブルシューティング	2
5.1 ナビゲータにテーブルが表示されない	2
5.2 ナビゲータにキューブが表示されない	2
5.3 レポート・デザイナーにディメンジョン階層が表示されない	2
5.4 複数レベルのディメンジョン階層が正常に機能しない	2
5.5 日付/時間ディメンジョン・テーブルが [ナビゲーター] ダイアログに表示されない	3
5.6 InterSystems IRIS に接続しようとする「アクセスが拒否されました」というエラーが表示される	3
5.7 Power BI サービスでレポートまたはダッシュボード用のデータを取得できない	3

Power BI 向け InterSystems IRIS コネクタ

このページでは、Power BI 向け InterSystems IRIS® コネクタの操作方法を説明します。

1 コネクタの概要

Power BI 向け InterSystems IRIS コネクタは InterSystems IRIS のカスタム・コネクタで、通常のリレーショナル・テーブルに関するレポートだけでなく、Microsoft Power BI から取得する InterSystems IRIS Business Intelligence キューブ・データに関するレポートへのアクセスとその作成が可能です。どちらのデータ・タイプのクエリでも、DirectQuery が完全にサポートされています。このコネクタは、Microsoft による 2019 年 4 月リリースの Power BI Desktop から、Power BI Desktop に付属しています。

2 InterSystems IRIS への接続

Power BI Desktop から InterSystems IRIS に接続する前に、InterSystems IRIS ODBC ドライバがシステムにインストールされていることを確認する必要があります。

Power BI Desktop から InterSystems IRIS に接続するには、以下の手順に従います。

1. Power BI Desktop を開き、[データを取得] > [さらに表示...] > [InterSystems IRIS (ベータ)] をクリックします。
2. [接続] をクリックします。
3. InterSystems IRIS インスタンスの接続情報を入力します。ここで、[Host (IP Address)] は InterSystems IRIS インスタンスのホストの IP アドレス、[ポート] はインスタンスのスーパーサーバ・ポート、[ネームスペース] は Business Intelligence データの配置先のネームスペースです。その他のオプションはすべて既定値を使用します。
4. InterSystems IRIS のインスタンスに初めて接続した際に、認証ダイアログが表示されます。[基本] を選択して、InterSystems IRIS の資格情報を入力します。

3 データの参照

InterSystems IRIS に正常に接続すると、Power BI にデータベースの [ナビゲーター] ダイアログが表示されます。[テーブル] を選択して、リレーショナル・テーブルを参照できます。左側のペインでパッケージを展開し、Power BI レポートに含めるテーブルまたはビュー、あるいはその両方を選択できます。

あるいは、左側のペインで [キューブ] を選択して、使用可能な InterSystems IRIS BI キューブを表示することもできます。[キューブ] オプションを展開すると、現在のネームスペース内の使用可能な InterSystems IRIS Business Intelligence キューブがすべてリストされます。プログラムによるフィルタなど、SQL アクセスを介してサポートできない特定の機能を持つキューブまたはサブジェクト領域はこのリストから除外されていることに注意してください。

キューブを展開すると、通常のディメンジョン、およびキューブの通常メジャーすべてが格納されているファクト・テーブルが含まれた、キューブのスター・スキーマ表現を確認できます。内部識別子が含まれる一部の列は削除されていることに留意してください。

4 データを使用したレポートおよびダッシュボードの公開

Power BI クラウド・サービスを使用して、InterSystems IRIS キューブおよびテーブルからデータを組み込むレポートやダッシュボードを共有できます。それには、[Microsoft のドキュメント](#)の手順に従ってデータ・ゲートウェイをインストールして構成します。データ・ゲートウェイとデータ・ソース (InterSystems IRIS を含む) を、Power BI サービスの [接続とゲートウェイの管理] ページで登録する必要があります。

Power BI デスクトップを使用してレポートまたはダッシュボードを公開した後、Power BI サービス内の関連するデータセットの [ゲートウェイ接続] 設定にアクセスして、InterSystems IRIS データ・ソースへのマッピングを手動で追加します。

5 コネクタのトラブルシューティング

このセクションでは、Power BI 向け InterSystems IRIS コネクタの使用時に発生する可能性のある、いくつかの一般的な問題に関するガイダンスを示します。

5.1 ナビゲータにテーブルが表示されない

Power BI 向け InterSystems IRIS コネクタでは、システム・テーブル、および InterSystems IRIS Business Intelligence キューブに関連付けられているテーブルは、通常の [テーブル] メニューから除外されます。後者のスクラブされアノテーションが付けられたバージョンには、[キューブ] メニューからアクセスできます。[ナビゲーター] にリストされていないテーブルまたはフィールドにアクセスする必要がある場合は、[カスタム・クエリ](#)を使用してそれを手動で追加するか、または Power BI の汎用 ODBC コネクタを使用できます。

5.2 ナビゲータにキューブが表示されない

Power BI 向け InterSystems IRIS コネクタは、InterSystems Business Intelligence キューブのリレーショナル・プロジェクトを利用して、Power BI でそれらのキューブを使用できるようにします。プログラムによるフィルタなど、キューブの一部の機能は、こういったプロジェクションを介してサポートされないため、リストから除外されます。この動作が適切ではないキューブがある場合は、インターシステムズのサポート窓口までお問い合わせください。

5.3 レポート・デザイナーにディメンジョン階層が表示されない

現在、Power BI ではコネクタからディメンジョン情報をシードすることはできません。

5.4 複数レベルのディメンジョン階層が正常に機能しない

ディメンジョンにレベルが複数ある場合、これらのレベルは通常、個別のディメンジョン・テーブルで表されます (スノーflake・スキーマ)。ファクト・テーブルと各ディメンジョン・レベルとの間、および異なるレベルのディメンジョン間で、外部キーのリレーションシップが存在する場合、Power BI ではファクト・テーブルから上位のディメンジョン・レベルへの 1 つのパスのみを "アクティブなリレーションシップ" として選択でき、間違ったパスが選択された場合、予期しないクエリ結果を招くことがあります。このアクティブなリレーションシップを修正するには、Power BI Desktop で [リレーションシップの管理] をクリックして、ファクト・テーブルと上位のディメンジョン・テーブルとの間の直接リンクを非アクティブにします。そのうえで、適切なリレーションシップを 1 つずつアクティブにします。詳細は、Microsoft の[ドキュメント](#)を参照してください。

5.5 日付/時間ディメンジョン・テーブルが [ナビゲーター] ダイアログに表示されない

Power BI には、InterSystems IRIS の日付/時間ディメンジョン・テーブルのインデックスと互換性のない日/時の値を操作するためのさまざまな機能が含まれています。そのため、InterSystems IRIS の日付/時間ディメンジョン・テーブルは、キューブの対応するファクト・テーブルの日/時列に変換されます。

5.6 InterSystems IRIS に接続しようとする「アクセスが拒否されました」というエラーが表示される

Power BI Desktop から InterSystems IRIS に接続するには、以下のストアード・プロシージャに対する EXECUTE 権限が必要です。

- ・ `%DeepSee_SQL.GetCubes`
- ・ `%DeepSee_SQL.GetDimensionTables`
- ・ `%DeepSee_SQL.GetDimensionColumns`
- ・ `%DeepSee_SQL.GetUnsupportedFeatures`

管理者が `GRANT` コマンドを使用して権限を付与することができます。

5.7 Power BI サービスでレポートまたはダッシュボード用のデータを取得できない

現時点では、公開されているレポートまたはダッシュボードに Power BI 向け InterSystems IRIS コネクタからデータを移入するには、“[データを使用したレポートおよびダッシュボードの公開](#)” の説明に従って、関連するデータセットと InterSystems IRIS データ・ソースの間のマッピングを手動で作成する必要があります。Power BI サービス内で既に InterSystems IRIS をデータ・ソースとして登録している場合、この操作によって、InterSystems IRIS データ・ソースに重複するエントリが作成される可能性があります。データセット内に含まれる InterSystems IRIS データへのアクセスが正常に確立されたら、いずれかのエントリを指定して、重複を削除できます。

